

新編の集団

No 1
発行所
大阪市旭区
森小路町4の7
昌美荘 秋田
月刊キッツ
関西読者会

板言
① 2月の読者会は14日
② 定期的にこの通信を受けとら
れたら方は、郵券のカンパを
要らない人もその由を伝えて下さい。

共同体の連合とはなにが

経済的自立

共同体の一つ一つのブロックは
いろいろの要素を持つて生れると
思つゝ、人の数も生産種別もその場
所も、生産の内容が異なして形づ
くられることもあるし、生活がや
り易いという現象から気の合つた
者が集つてつくるといふこともあ
ると思つゝ、それらは全く任意であ
るならう、また共同体が他の連動
体や権力斗争集団とちがつた要素
は、物の経済を裏づけとして存在
せよといふことである、そこに立脚
するから必然的に経済的自立を
獲得してゆかねばならぬ、自
立の上でなければ基本的には自由
も自治も実現できぬ、他は連動
体や斗争集団を比較して思ひた
のは、経済的自立を基盤として立つ
集団が、その在りかによつては、
日常性をそのまゝ押し抜けてゆく
ことによつてしづかに質的変換を
遂げ得るといふことである、二、三
、拓ける、と考ふる私は共同
体成立の動機に即ち資本を蓄積し
てゐるのだ、この意識が、日本に
も現存する、閉塞化し、既知の単
位化した共同体の在り方から脱皮
出来るかどうかの岐路目だと思つ、
独立し、単細胞した共同体の中には
多様な一人の人間の欲求を吸収し、
諸君を養育する社会性、人間大
流がない、この欲求を連合してある
とも言える。

共同体の、特に資本体制を意識
に置いたブロックには、既知コミュニ
ティの性質を持つて生れ易い、そ
れも人種や生産種別や場所、時期
を、まぢまぢに充足せざるを得な
い、これらのブロックが多少の大
小はあるにしても、資本の口の中
、異種の価値観を持つて充足する、
最初の着地点そのものが資本の
サイクルを廻つてゐるために初期
においてはそのサイクルに添つて
進むことが得ない、といふことは

商品生産との競争をよぎなくされる
のであり、各ブロックは中小企業的
な弱さを当然持つてゐるので、こゝ
が資本体制の中に根をおろしてゆく
コミュニティーの特徴と言へると思つ、
これらのブロックが連合して消費者
大衆と結びつことは、欠くこと出来な
い條件ではあるが、それだけ連合
として物産化した力となり、本領的
に重なり合う連帯にならないのでは
ないか。

拡がりの連合

つまりコミュニティー連合による生産
物は、コミュニティー内部においては
商品価値で測ることが出来る、とい
ふことである、米は資本の自由競争
に巻き込まれ、米は米、小麦は小麦
と、つづき「百姓ももうアカンなア
ト」といふ、商品一般、商売一般として
評価されているが、王食としての米
麦は一貫してその重要性は、変わら
ないものである、それは意識産業（著作、
彫刻、出版、映画等）も高度な知識
技術研究も、コミュニティー内部にお
いては、他の生産一般と同様の価値で
ある、この時、コミュニティー内部にお
ける人間は、商品価値の二環に組みま
れた価値評価から断じて抜け出して
ゐるのである。

- ◎ 先づ物としての連合が成立し
ないかぎり、各ブロックの質的
力がアップするようにと不足して
いようと固定化するだらう。
- ◎ AがAブロックからBブロッ
クへ行き、一々自働いたにして
も、AはBブロックにおいて
主体であり得ない、従つて連帯
としての技術の交換も人間の交
流しやりにくい。
- ◎ Aの夢が、Bの行動によつて
見知らぬ土地においても実現し
つつあり、そのまゝ、逆でもある
といふ全体的連帯感の出現が
未だない。
- ◎ コミュニティーは拡大されればさ
れるほど、生産的存在である

今井みさお

同時に消費的存在でもあるとい
ふこと。
しちがつて生産物を資本との競争
において換金してゆきながら、質的
に内部転換を遂げまゆくといふ二重
構造の性質を、資本体制の中の共
同体は宿命的に帯びてゐるのである。
拡がりを志向し、拡大によつて社
会主義化を実現してゆくには、資本
の時期をまちまちにした各ブロッ
クは、たとえ経済的安定をみてゐるブ
ロックでも、不利な条件で悪戦苦斗
してゐるブロックや、後進ブロッ
クへ、重り合い、乗り越えてゆく
と連帯感がなければ、連合といふ
の右折的、各個人、各ブロックの
持つ個性や特徴を認め合ひ尊重し合
う人間関係への連合の念出が困難に
なると思つ、オ、この、この、この、
養育と、この母体を抜きにしても
人間らしい男女の在り方も、家内の
関係も、教育も、論じにくい、単
なる論理の飛躍になつてしまふ。

共同体めぐり

はせん馬天嶺

尾刺弘

姫路から姫新線津山まで入る、
そこからバスで一時間ほどさらに山
に入ったところに日本原がある、こ
こは旧陸軍駐留米軍自衛隊と明
出以来射撃演習地として使用されて
きた、この三月、新たに姫路から約
三千人の兵隊と弾薬が移駐されるこ
とになった、さうすると着弾地近く
に住む農民たち約二百家族は、ま
くにも生活に困つてしまふ、それは、
① 流れ主などによる生命の危険へ
すでに昔からいくつかが例がある、
② 爆音によつて人間と乳牛に及ぼ
す害（統計から云つてミルクの出が
半減する）
このような地で、射撃地反対の申
争が後援学生と農民によつて起され
た、学生は小屋を作つて共同生活に
入つた、（へつづく）

共同体をさらけ出す 深く掘り下すよう

〇氏より「家族的雰囲気でもあり、やりましうか」との声があり、オズ回読者会がはじまったが、小人数(十二名参加)であって、お互いに相手がどんなことをしているのかもよくわからず、ほんとにさうさうさうなく、最初はずり頭で酪農を始めるという彼の報告は、共同運動が現実にはこの社会で着実に歩みを進めているんだということ、あらたに実感としてせまってくる。共同運動など単に若者がユートピア社会を夢みているにすぎないなどと無責任にいった人に、そのらみてみると、いいたい気がする。(人のふんどしでなんとやらといわれかねないけれど)

月刊キブツ 読者会に参加して

関西へ

発刊にむけて

月刊キブツ読者会
オズ一回では、イラストエル人ヨッソ氏へのイラストエルの国、あるいはキブツに関する質疑応答があったが、それ以後はキブツそのものより、参加者個人がかわって、またかわらざるをえない社会の共同性(それが現実社会ではゆがめられた形でしか現われないうが...)へと目がむけられているように思う。

共同体結びつきの論理

共同体の概念は、結びつきの論理にあり、関係論ともいえる。〇氏の発言があつたが、そういう意味で野本三吉氏の論文「人間関係論序章」(月刊キブツ 40、67合併号)へ「不可視のコミュニケーション評論社」は暗示的であると思ふ。

月刊キブツ読者会を続けていくにあたって、向題点として私が感じるのは、掘り下げていけば面白くなりそうテーマが、個人個人の発言の中に数多くあるように思ふますのに、それが途中でほとんどなく別の話題に転じてしまっている

ことです。
レヅメ(ショート・ショートでもいから)という形で、各出席者が毎回、何か提出すれば、自ずとその日のテーマがさまるし、掘り下げて、次回また別の人がレヅメを提出することになるという具合に、ほとんどこの会合も発展していくのではないでしようか。
(内藤朝子)

共同体を生きえろ 共通の広場に

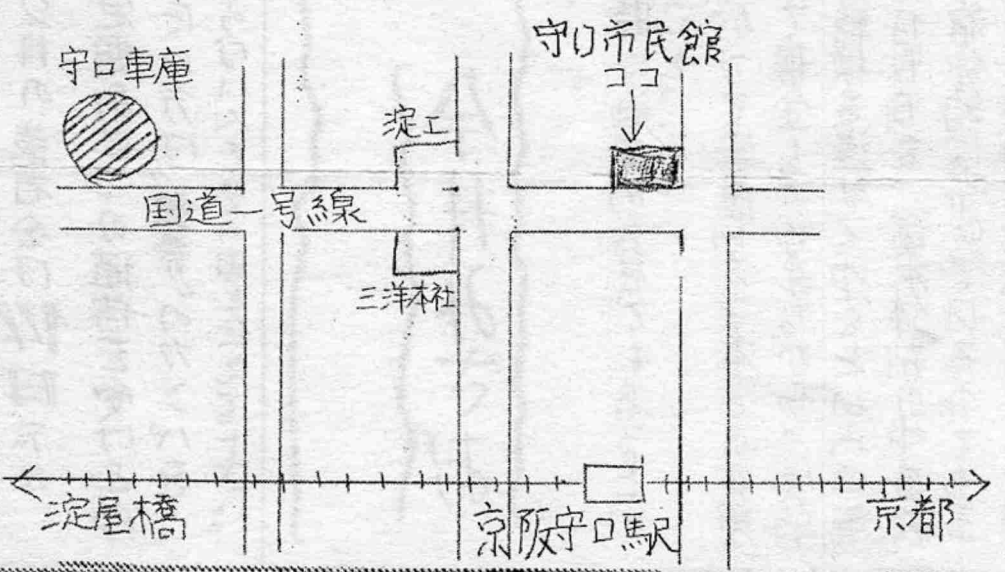
関西キブツ協会が一年に何回集まるか、足されたが、一年に何回集まるか、非常に受身であり、ことある以外は殆ど活動もしていない。
そこへ昨年十一月、尾関弘氏から「キブツ読者の会」の呼びかけがあった。どう違うのだろうか、一体どの

月刊キブツ
あつて、たつた一人であつて一回目は、出席した。
二十才代が殆どで、非常に若い年代層でたつた一人、どうも場違いさを感じさせられた。
しかし、はがらすもキブツから帰って間もない友を、この機会に得ることが出来て何よりも、直接にいろいろとキブツのことをたずねることが出来るようになったのが、何よりありがたい。

第4回・月刊キブツ読者会

月刊「キブツ」一月号、および「自由連合」誌上の「共同体の変革」と題する、ヨッソ尾関対談(二十三号)を中心に話し合いたいと思ふます。
ととき
二月十四日(日)
午後一時〜五時
ところ
守口市民会館
TEL: 933-0131

お知らせ



それと、月一回の読者の会の例会までに何回か同志三人で話し逢う機会に恵まれるようになった。
年令を越えて、友を得た喜びは非常に大きい。
読者の会もすでに三回もたれた。一回目は、会場が狭く、何度も椅子を会場にもちこむ有様で、それにイラストエルのモツバの青年ヨッソ氏の出席もあり、いろいろとキブツについての傾向が活発に出た。
話題は特に一つに集中されず、個人の特異性を尊重したお互いの関係を主旨のもとに現在運動をしている人々を模索している人々と、出席者は称々である。
我々はこのような共同体を志向しているのか、その共通の広場を求めてより広く、より深めていくことのために必要に迫られている。
この月一回の貴重な機会をお互いがより有効に活用できるように、向題の提起や悩みなどをもち出し、活発な交流の場を期待している。
X 校#14か好ん

この礼は、月刊キブツ関西読者会の間の通信になればと思つて発行しました。
今のところ有志だけです。この通信が、新しい「共同体」への志向を高めるために役立てばと思ふます。各地の共同体のニュースや、あなたの投稿をまっています。
この通信の連絡先は、表題下です。これは、無料。ただし、カンパなければ、発行できません。